編集後記

本特集では，インテリジェンスから見たモデリング，モデリングから見たインテリジェンスの二つの視点から，今後のインテリジェンスとモデリングの協働の方向性を紹介したものである．システム・情報部門コンピューテーショナル・インテリジェンス（CI）部会では，CI分野の将来の体系化を目指して学術的・技術的発展のまとめとこれからの展望の議論を知識として蓄積し，これらを広く提示する試みとしてComputational Intelligence Fons Scientiae（CIFS）プロジェクトが開始された．現在，深層学習やChatGPTが大きな注目を集めている．しかし，これらは説明可能性や原理の欠如があり，信用して使う，あるいは，さまざまな用途に使うという面で不十分である．したがって，今後，これらの手法に代表される「インテリジェンス」と説明や原理の表現手段である「モデリング」が統合され，より信頼性，汎用性が高いものとなることが期待される．本特集は，このために重要となると想定される，前述の二つの視点から，今後のインテリジェンスとモデリングの協働の方向性を紹介したものとなっている．CI部会では2015年に特集「コンピューテーショナル・インテリジェンスのこれまでとこれから　―SICEにおけるコンピューテーショナル・インテリジェンスとは―」（VOL. 54, 2015）を企画してきた．それから10年近くが経過した現在，CIFSに関係される著者の皆様にご寄稿いただいたこの特集は最近のCI研究の進展を網羅的に把握できる内容になっていると考えている．

（**信川　創・関　宏理**　記）

◇第63巻第11号（2024年11月号）　予定目次◇

一般記事

リレー記事　「FACE the future」《第70回》深層学習モデルを説明するための技術開発　渡邊千紘（NTT研究所）

特集　論文を書くことについて考える
――論文集の過去，現在，未来――

総　論　SICEとSICE論文集のこれから　高橋桂子（早稲田大）
解　説　計測自動制御学会論文集（和文論文集）に投稿しよう　藤崎泰正（大阪大）
解　説　JCMSIに投稿しよう　高井重昌（大阪大）
解　説　論文公表を取り巻く話題―オープンアクセスと生成AIについて―　山下　裕（北海道大）
解　説　学びと成長，飛躍のためのSICE論文　島　圭介（横浜国大）
解　説　私がJCMSIに論文を書く理由　滑川　徹（慶應大）
解　説　書いてみよう―若い研究者へ―　遠藤　玄（科学大）
解　説　書いてみよう―企業の方へ―　野田哲男（阪工大）
解　説　論文が書けると仕事がデキル―企業人が論文を書くと―　川邊武俊（九州大）
解　説　SICE FESで語る→論文誌で書く　望山　洋（筑波大）
解　説　会誌と論文集の完全電子化趣旨とスケジュール　杉江　弘（三菱電機），高橋真吾（早稲田大）
解　説　TeXによる論文執筆：執筆手法やツールを極めて学術論文を書こう　岡島　寛（熊本大）
解　説　LATEX執筆環境構築の手引　曽根忠瑛（信州大）

（第63巻第10号）

特集号編集WG：大谷雅之（近畿大学），保田俊行（富山大学），山田広明（富士通株式会社），岡島正太郎（名古屋大学），関　宏理（大阪大学），信川　創（千葉工業大学：幹事）

2024年度　会誌出版委員会（五十音順）

委員長：山下　智輝　　副委員長：小木曽公尚

飴谷　充隆	伊藤　博通	伊藤　優司	井上　淳	伊吹　竜也	大谷　雅之	大塚　章正
岡島正太郎	岡本　有司	尾山　匡浩	川喜田佑介	川瀬　利弘	久下本秀和	関　宏理
田中　基康	豊田　充	西川　鋭	西野　敦洋	長谷川圭介	堀内　哲也	堀川徳二郎
宮廻　裕樹	保田　俊行	山田　広明	吉野　公三			